

●研究授業の様子



【令和6年11月20日（木）】

- 5年 国語科「あなたはこう考える」
- 単元名「意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう」
- めあて「予想される反論を考え、意見文の説得力を上げよう」
- 自分が決めた「主張」に対して「根拠」を明確にして説得力ある意見文を書く子供たち。

●研究協議会の様子

「オクリンクプラス」を活用して意見を共有、整理、統合する。



「主張」の決め方って、どうやって決めたのかな？

ぜひ、質問してみましよう。

テーマ社会全体に関わる主張（24時間のコンビニは必要か）とか、個人的なもの（ランドセルは必要か）などがありましたね。どう考えたらいいのでしょうか？

そうなんだよね、価値論題は、事前に省くとよかったかもね。

児童が根拠をあげるのに、難しい論題があったと思う。

論題を考える時のポイントってなんだろう…？

論題を価値論題にすると、判断の基準が主観になるので、根拠として説得力をもたせるのは難しくなるよね。

「予想される反論」を、自分で考えを出すのは難しいと思う。まずは、「考えと根拠」までを話すような交流をすれば、交活動がさらに生きたんじゃないかな。

その交流の中で、質問を出し合って、それを「予想される反論」として書いてみるのも一つの方法だね。

そもそも意見文は、相手意識・目的意識をもつことが必要で、意見文を誰に読んでもらいたいのか、なぜ読んでもらいたいのか、そこがなければ意見文じゃないと思う。あの人に読んでもらいたい、という「思い」があるから説得力が出てくる。そこがないとぼやけてしまうかな。

あとは「題材選び」。題材の良さが、その授業の成功につながると言っても過言ではない。そのぐらい題材選びは重要だよ。今回の題材・テーマはどうだったかな。

自分の主張に対して、「予想される反論」を書くときに、その考え出すのが難しい子もいるので、自由交流で見つけられるようにしたのですが、いかがでしたか？



1. 考えること、書くことで「考えの形成」を大切にする

作文を書くことは、考えの形成である。考えたことをいかに表現できるか、ということである。

日本人が苦手としている部分。先日、文科省の教科調査官の話を聞く機会があったが、「考えの形成が大切」で、「やっぱりそこがまだまだだ。」とおっしゃっていた。

児童が、日々の生活の中で、自分の考えをもつ習慣を取り入れる。書くという活動をどの授業でも行ってほしい。

頭の中で考えている時は、混とんとしている。書くことによって、頭の中の考えが整理される。また、さらに考えを深めることにもなる。書くことを習慣付けることで、自分の考えを言語化する力が身に付く。そこで大事なのが、自分の考えを適切な言葉で書き表すための語彙の獲得である。

2 語彙の拡充

自分の考えを言語化するためには、語彙の拡充が必要となる。教師が子供たちに「言葉を教える」ことに躊躇しないほしい。

その場で使える言葉、似ている言葉などを教えることで、言葉を習得できる。意図的に言葉を覚えさせたり、文例を示したりすることで、理解が深まり活用することができるようになる。

例えば、朝会で校長先生が話をする。その話で心に残った言葉、なぜそのように考えたのかを書く習慣を取り入れることで、考えを言語化する習慣が身に付く。最初は難しいが、継続的にやることで上手に書けるようになり力が付く。それを保護者・地域に紹介してもよい。無理なく取り組めることが重要。

3 交流活動について

交流は大切。交流には二つある。一つは学習の最後のまとめの交流。もう一つは学びを深めていくための交流。これがとても大切。違いを見付ける交流もよいが、「意見を聞いてみたい。」という必然性をもった学びを深める交流が重要になる。子供がやらされているではなく、自主的に行いたいと思う交流の場を作る工夫を。

4 目標とめあてについて

「目標」や「評価規準」は、学習指導要領から持ってくるので抽象的になりがち。めあては、子供の具体的なイメージを持つことが大切。どのような姿になるといいのかという姿をイメージした教材研究を進めると授業が行いやすくなる。

昨年度、そして今年度の研究が、来年度の実践に生かされて、さらに充実した校内研究になることを願っています。